

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 13 日現在

機関番号：32621
 研究種目：基盤研究(C)（一般）
 研究期間：2017～2021
 課題番号：17K03143
 研究課題名（和文）ザウィヤのイスラーム教育とアルジェリア独立運動へのイデオロギー的影響の研究

 研究課題名（英文）Islamic Education of the Zawiyas and Its Ideological Influence on the Algerian Independence War

 研究代表者
 私市 正年（KISAICHI, Masatoshi）

 上智大学・総合グローバル学部・教授

 研究者番号：80177807
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、アルジェリアの独立運動の研究において、軽視、ないしは否定的にとらえられてきたザウィヤやスーフィー教団がイスラーム教育や情報交換の場の提供によって、農村におけるナショナリズム・イデオロギーの育成に大きな役割をはたしたことを明らかにした。本研究において、Hamilのザウィヤの青年たちが非合法下で発行していた新聞al-Ruh紙を発掘したことは、非常に重要な史料上の成果と言える。この史料の分析を介して、農村の民衆たちが、イスラーム教育だけでなく、様々な新聞や雑誌、ラジオ放送、外来者たちとの接触によって政治意識や民族意識を形成していった過程が具体的に明らかにされた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究によって、ザウィヤやスーフィー教団がアルジェリアのナショナリズム運動において大きな役割をはたしていたこと、ザウィヤやスーフィー教団におけるイスラーム教育と外部との接触の機会は、青年たちをナショナリズムやデモクラシーなど新しい政治思想に目を向けさせたこと、という二つの新しい歴史解釈が提示された。こうした新しい知見は、FLNとウラマー協会を中心としたアルジェリア・ナショナリズムの理解を大きく変えることでもある。とくに新史料Ruh紙から明らかになった、Hamilのザウィヤの青年たちが武装闘争まで志向していた事実の指摘は、従来のFLNの歴史観に根本的な再考をせまる学術的意義を有する。

研究成果の概要（英文）：This study reveals the vital role played by the popular Islam of the Sufi Tariqas and Zawiyas in the training and evolution of the Algerian nationalist movement, through Islamic and moral education and the effecting of information exchange. The discovery of the clandestine newspaper "al-Ruh" is a critical outcome of this study. This document has established the fact that youth in villages had conceived the notion of democracy and nationalist consciousness not merely through Islamic moral education, but also through radio broadcasts, foreign newspapers, and their contacts with diverse visitors such as intellectuals, and journalists. These insights are endowed with a profound significance that urges a reconsideration on our part of the understanding of Algerian nationalism, as centered on the FLN and the Association of the Algerian Ulama.

研究分野：歴史学

キーワード：スーフィー教団 ザウィヤ ナショナリズム アルジェリア イスラーム教育 独立運動 民衆運動

1. 研究開始当初の背景

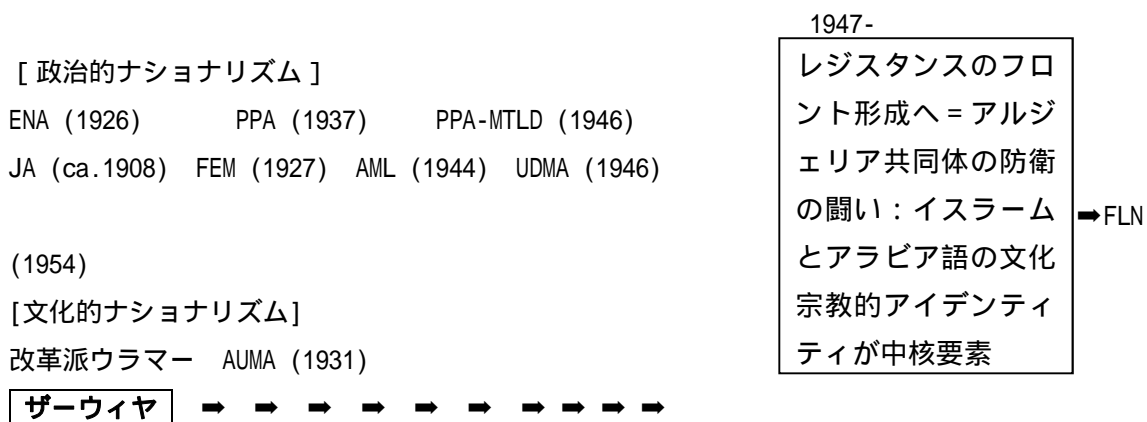
アルジェリアの独立運動は、これまで共産主義的、世俗主義的潮流の FLN(民族解放戦線)と、都市ブルジョワ層を代表とするイスラーム改革主義のアルジェリア・ウラマー協会の二つの組織・集団を中心に行われてきた。しかしこうした研究の立場に立つと、多数のスーフィー教団員や地方の農民たちが 1940 年代後半以降、とくに 1945 年の 5 月 8 日事件に参加し、さらに独立運動に動員されていった事実を合理的に説明することが難しい。従って本研究は、独立運動に巨大な農村大衆が動員された原動力は、アルジェリア農村に広がっていた民衆的イスラーム組織ザーウィヤで行われていたイスラーム教育と道徳倫理の啓蒙活動ではなかったのか、という問題意識から、ザーウィヤにおける伝統的教育と独立運動への動員力との関係を再検討することから始まった。

2. 研究の目的

このような研究史上の問題点をふまえ、本研究では、アルジェリア独立運動が農村出身者を主体とする大衆運動であったこと、大衆を動員する上でジハードやウンマ(共同体)などイスラーム・イデオロギーが活用されたことに着目した。すなわち、農村の大衆を独立運動に動員していった原動力は、主として農村地域に基盤をおくザーウィヤとスーフィー教団におけるイスラーム教育と倫理やモラルの道徳教育ではなかったのか、という問題意識から、そこで行われていた伝統的な教育内容を新聞史料によって分析することである。それと同時に、ザーウィヤとスーフィー教団施設が多様な情報交換の機会を提供する場であることにも注目し、ザーウィヤの生徒たちが国内外の情報を多様な形(ラジオや訪問者との接触など)で入手していたことも考察した。本研究は、このような視点と方法によって、ザーウィヤとスーフィー教団がアルジェリアのナショナリズム運動に重要な役割を果たしたことを明らかにすることを目的として研究に取り組んだ。

以上の研究の背景と目的をふまえて次のように仮説を設定した。

- ・ 政治的ナショナリズムと文化的ナショナリズムの共存。
- ・ FLN は革命のフロントではなく、レジスタンスのフロントとして出発。
- ・ レジスタンスは、アルジェリア人の聖なる共同体を守る闘い。
- ・ 聖なる共同体はイスラームとアラビア語の文化的アイデンティティを中核とする。
- ・ とするならば、ザーウィヤがイスラームとアラビア語の文化的・宗教的アイデンティティ形成(文化的ナショナリズム)に、重要な役割をはたしたのではないか。



JA : 青年アルジェリア人 FEM : ムスリム議員連盟 AML : 宣言と自由の友 UDMA : アルジェリア宣言民主同盟 AUMA : アルジェリア・ムスリム・ウラマー協会 FLN : 民族解放戦線

3 . 研究の方法

研究の方法の基本は、教団が発行していた公認新聞と、Hamil のザーウィヤ(Zawiya al-Hamil) の青年たちが非合法下で発行していた手書き新聞 al-Ruh の記事内容を分析することである。フランス植民地期のアルジェリアでは、多数の教団が活動をしていたが、教育活動を積極的にいき、かつ新聞を定期的に発行していた教団は、Rahmani 教団と Alawi 教団であった。Rahmani 教団の中でも、Hamil に建設されたザーウィヤには、多数の生徒が集まり、初等教育から高等教育のレベルまでの教育を学んでいた。

他方、Alawi 教団はモスタガネムに本部をおき、教団員たちにアラビア語とイスラームを柱とした教育をほどこし、道徳や倫理の啓もう活動にも力を入れ、また近代的な西欧の思想や科学技術を取り入れることにも積極的であった。Lisan al-Din や、al-Balagh al-Jaza ' iri など複数の新聞が発行された。

本研究で参照した重要な新聞は次の通りである。① Lisan al-din。これは Alawi 教団によって発行された最初の本格的な新聞である。発行の目的は、アルジェリア・ウンマ(アルジェリア共同体)の改革を掲げ、非政治的立場をとりつつ、ムスリム青年たちに正しいイスラームの倫理、道徳教育を施すことであった。しかし非政治的といっても、新聞は、植民地支配下ですすむ非道徳的行為(飲酒や売春など)の横行を批判したため、記事内容はおのずと政治化することもあった。al-Balagh al-jaziri。これは、Alawi 教団によって 1926 年 12 月 24 日付で創刊された新聞であり、1948 年 3 月 19 日付、第 703 号まで刊行された、教団の新聞としてはもっとも長期間、刊行された新聞である。Lisan al-din の第 12 号が発行禁止処分を受けた後、Alawi 教団がその後続として発行したのが、この新聞である。al-Ruh。この新聞は、上記二つの新聞とは異なり、ラフマーニー教団に属する Zawiya al-Hamil の青年たちによって、非合法下で発行された新聞である。印刷機械を使わず、手書きの新聞である。

4 . 研究成果

以上の新聞に共通する内容は、アラビア語教育とイスラーム教育の制限に対する不満や批判の表明、イスラーム的に非道徳な現象の広がりや告発と警戒心のよびかけなどであった。たとえば、アルジェやオランなど大都市では、バーの営業、売春、賭博所の開帳、露出する服装などイスラーム的に非道徳とみなされる現象は目をおおうばかりであり、新聞はこうした現象に憤りや警戒心を隠さなかった。同時にアルジェリア人ムスリムのキリスト教への改宗や帰化といった問題も起こった。スーフィー教団の新聞は、これらの現象や問題をアルジェリア・イスラーム社会の危機として警告したが、諸問題 教育問題を含めて が一向に改善されない状況の中で、この問題の解決のためには植民地支配からの解放が必要である、との認識に向かうようになった。こうした諸問題は、新聞記事によって、またザーウィヤでの教育を介して、さらには生徒同士、生徒と教師との日常的な会話などを通じて共通認識となり、それは、次第にザーウィヤや教団に集まってきた人々にナショナリズム思想の目覚めを促すことになった。

しかし、公認新聞には、フランス植民地支配に対する配慮が必要であり、自ずと記述内容に制限がかかった。これに対し、Hamil の青年たちが地下新聞として発行していた新聞 al-Ruh 紙は、このような配慮をせずに、本音を語った。al-Ruh 紙には、イスラーム教育や道徳、倫理に関する記事だけでなく、デモクラシーやナショナリズムの思想、植民地支配に対する批判、武装闘争

をも辞さない独立運動の志向などが、ときには激しい言葉でもって記述されている。彼らのこのような思想形成には、ザールウィヤでの教育だけでなく、様々な新聞や雑誌、ラジオ放送、外来の知識人やジャーナリストとの接触などによって得た政治思想や諸外国の情報も預かって力となった。

本研究によって明らかになったこうした事実は、FLN とウラマー協会を中心とした従来のナショナリズム研究に根本的な修正をせまるものである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 私市正年	4. 巻 2019.5
2. 論文標題 アルジェリア政治の混乱とその背景 2019年大統領選挙の行方	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中東協力センターニュース	6. 最初と最後の頁 9-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11501/2852351	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 私市正年	4. 巻 56
2. 論文標題 混迷深めるアルジェリア政治と大統領選挙	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 98-101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 私市正年	4. 巻 534
2. 論文標題 アルジェリア政治の現状 2019年大統領選挙の課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中東研究	6. 最初と最後の頁 71-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 私市正年	4. 巻 711
2. 論文標題 ベルベル人の「熱狂的な宗教運動」について教えてください	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 歴史と地理	6. 最初と最後の頁 47-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 私市正年
2. 発表標題 AI-Ruh紙とアルジェリア・ナショナリズム運動の再考
3. 学会等名 日本中東学会第35回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 私市正年
2. 発表標題 アルジェリア政治の混乱とその背景 ポスト・ブーテフリカと2019年大統領選挙の行方
3. 学会等名 研究会・中東研究センター（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 私市正年
2. 発表標題 The Zawiya as an Asylum in Premodern Maghreb-A Reconsideration of the Public Sphere within an Islamic Society
3. 学会等名 International Seminar on "Public Space, Public Sphere and Publicness in the Middle East"
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Masatoshi KISAICHI
2. 発表標題 Zawiya as an Asylum(Asile) in Pre-modern Maghrib- A Reconsideration of Public Sphere as an Islamic Concept
3. 学会等名 WOCMES, Seville, 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masatoshi KISAICHI
2. 発表標題 Studies on Emir Abdelkader in Japan
3. 学会等名 International Symposium-Emir Abdelkader between the two shores,University of Mascara, Algeria (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Masatoshi KISAICHI
2. 発表標題 L'etablissement de l'etat-nation algerrien: l'alliance et la convergence des deux nationalismes -- le mouvement nationaliste culturel et le mouvement nationaliste politique
3. 学会等名 Center for Islamic Studies at Sophia University; Institute of Asian, African, and Middle Eastern Studies , Sophia University
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Masatoshi KISAICHI
2. 発表標題 Le journal "al-Ruh" et les jeunes de Zawiya al-Hamil
3. 学会等名 al-Shabab wa al-Qiyam al-Diniyya (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 私市正年	4. 発行年 2020年
2. 出版社 清水書院	5. 総ページ数 369 (内288-303)
3. 書名 侠の歴史 西洋編上 + 中東編 (「アブド・アルカーディル」)	

1. 著者名 Masatoshi KISAICHI	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Center for Islamic Studies, Sophia University	5. 総ページ数 202 (内104-114)
3. 書名 Public Space, Public Sphere, and Publicness in the Middle East (The Zawiya as an Asylum(Asile) in Premodern Maghrib: A Reconsideration of Public Sphere as an Islamic Practiceを執筆)	

1. 著者名 私市正年	4. 発行年 2021年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 381 + 113 (内356-375)
3. 書名 世界歴史大系『イタリア史』古代・初期中世1(「アラブ人のシチリア」)	

1. 著者名 私市正年	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 230 (私市論文76-91頁)
3. 書名 ザーウィヤ・アル=ハーミルの青年たちを "al-Ruh" 紙 (高岡豊他編著『中東・イスラーム世界の歴史・宗教・政治』所収)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------